

## 目標 7 住民と行政がともに考え、 ともにつくる信頼のまち

「目標7 住民と行政がともに考え、ともにつくる信頼のまち」です。

平成二十七年度は町政運営の最上位計画である第四次総合計画の後期基本計画開始年度です。重点戦略を含め各施策に精力的に取り組むとともに、PDC Aサイクルによる適切な管理を継続して実施してまいります。

町民討議会議を引き続き開催し、町民の皆さんの幅広いご意見を伺います。また、町民討議会議にこれまで参加頂いた方々には、専門知識をお持ちの方



や、まちづくりへの参画意欲が高い方もおみえになります。

こうした方々と公募者による、まちづくり研究会、まちづくりサポーター制度を始めます。サポーターの方とともに、まちづくりについて討議し、いただいた意見を実際の施策に活かしてまいります。

平成二十七年年度に開始される社会保障・税番号制度、いわゆるマイナンバー制度についても関係するシステムの改修等、適切に対応してまいります。十月に個人番号の通知カード、平成二十八年一月に個人番号カードの交付を予定しております。

また、平成二十七年年度は、五年に一度の国勢調査の実施年度となります。国勢調査は、調査員がそれぞれの世帯を訪問する方法によって行います。調査を進める上での最大のポイントは、すべての人と世帯を漏れなく、重複なく調査することです。皆様の調査へのご協力とご理解をお願いします。

### 結びに

和太鼓の音が鳴り響く中、格納庫の扉が開くと、赤、黒、金の3色のラインに彩られた、流線型の白い胴体が、威風堂々とその姿を現しました。去る十月十八日のMRJロールアウト式典



のことです。

思い起こせば、昭和三十七年八月、わが国初の国産旅客機YS-11がここ豊山から飛び立ちました。

当時の豊山の人口は、5,000人弱。その後、本町は、豊山保育園の新築、学校給食センターの完成、町制施行、そして新庁舎の完成と、日本の高度経済成長期と相まって、臨空文化都市へと発展を遂げました。

そして、半世紀後の今、MRJがまさに、ここ豊山町を飛び立とうとしています。

未来を見据えながら、この平成二十七年を豊山町が再び大きく飛躍する、次世代に語り継がれる歴史的転換点にしなければなりません。

本町は、MRJの最終組立工場が立地し、完成した民間航空機が最初に大空を舞う、他にない大きな特徴があります。この最大の強みを活かし、機構改革や自主財源の確保、歳出の徹底的な見直しにより、あらゆる風を大きく飛躍するための推進力に変え、第四次総合計画に掲げる町の将来像、都市的な要素と、穏やかに暮らせる環境を併せ持った「にぎわいとやすらぎのアーバンビレッジ」の実現を目指してまいります。

「国産旅客機の復活は私の長年の夢、三菱重工業の夢でもあり、まさに日本の夢」三菱重工業の大宮会長は、MRJロールアウト式典で、こう述べられました。それと同時に、「夢だけでは事業はできない。国産旅客機を開発、製造、販売しなければならぬ膨大な障壁がある」と続けられました。

少子高齢化の進行、情報化の急速な進展、防災に対する意識の高まりなど、町に求められるニーズは、ますます高度化・多様化しています。それらの課題にも歩みを止めることなく、本町の夢である「にぎわいとやすらぎのアーバンビレッジ」の実現に向けて、着実に歩みを進めてまいります。

皆様のご協力とご理解をあらためてお願い申し上げます。私の平成二十七年予算についての所信の表明を、閉じさせていただきます。